

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年1月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105081
法人名	医療法人 尚文会
事業所名	グループホーム 竹山苑
所在地	鹿児島県鹿児島市郡山町2570番地1 電話 099-298-2161
自己評価作成日	平成25年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年1月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のグループホームは、緑が多く自然豊かな環境に恵まれています。そのため職員は、利用者に季節の移り変わりを肌で感じていただき、のんびり過ごしていただけるように、家庭的な雰囲気作りに努めています。特に近くの田んぼでの田植えや稲刈り等は昔を懐かしく思い出され、喜んでもらっています。又、裏の畑での野菜やサツマイモの収穫に歓声をあげ、近くの池への散歩では、季節の草花を摘んで来て飾り楽しまれています。開所して7年、自治会へも加入させていただき、清掃や季節行事を通じて、地域の方々との交流も増えてきました。後は、防災関係での協力体制を築いていく必要があります。なお、家族の方には、運営推進委員会や行事等で、家族会のあり方を検討していただき自主的に活動していただけるようお願いしています。事業所としては、利用者が重度化した場合や終末期のあり方についても、可能な限り最後まで支えていけるよう前向きに取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームの玄関前は山を遠景に田畑が広がり、そこでのお茶や外気浴は季節を感じ伸び伸びとできるスペースとして普段から活用されている。
- ・自治会へ加入し、地域の行事に参加する等、地域との関わりを継続しつつ、行事参加等の相互交流を積極的に行っている。
- ・理念に沿った実践を意識付けると共に、職員間の共有化を図り、ケアに活かせるよう積極的に取り組んでいる。
- ・職員間の雰囲気が良く、利用者との間にも信頼関係が築かれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は、みんなで作り上げたグループホームの理念を機会ある毎に確認し合って、実践につなげている。日々のサービスの提供で、理念を意識して取り組むように、業務日誌に記録している。	理念に沿った目標を掲げ日々の業務に取り組み、業務日誌に記録し、振り返りを行い確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入させていただき、地域の行事や清掃作業にも参加して交流を図っている。又、苑の行事に自治会員や子供達にも参加してもらっている。日常的な買物、病院、美容院等も地域の施設を利用している。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。ホームの行事へ住民を招待するなど、相互に交流している。ホームに毎年、中学生の体験学習を受け入れたり演芸ボランティアや保育園児とのふれあい等、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員は、地域の会合・文化祭・研修等に参加し、認知症への理解やケアの啓発に努めている。又、研修生や中学生体験学習も受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域・行政・民生委員・家族に参加いただき運営推進委員会を開催し、苑の活動状況報告や話し合いを行い、そこでの意見や要望をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。ホームからの報告や地域の状況等、話し合いが行われ、夜間想定避難訓練を計画したり、居室の避難確認用に蛍光板のネームプレートを作成する等、提案を活かして運営に反映させている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会等で、地域包括センター職員にアドバイスしてもらっているほか、地域への広報にも協力いただいている。又、地域グループホームの研修・連携のために、何かと相談している。</p>	<p>福祉担当者及び介護保険担当者との連携を密に取り、苑便りの送付や相談・報告を行っている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議にも毎回、参加し、運営推進会議への出席もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>代表者及び全ての職員は、カンファレンスや日々の申し送り等で、身体拘束をしないケアの実践についてお互い確認し合っている。特に、玄関や居室に鍵をかけないケアに努めている。その事に伴うリスクについては、事前に家族と相談している。</p>	<p>身体拘束廃止の指針やマニュアルを作成し、計画的に研修を行っている。言葉による拘束等についての外部研修を受講し、伝達講習を行い、全員の理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止に関心を持ち、勉強会やカンファレンスを実施している。又、日々の介護の中では、お互いが注意を払い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や、成年後見制度等の研修に参加し、そこで学んだ事は、カンファ等で資料をもとに他職員へ説明し、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約内容について可能な限り詳しく説明している。又、利用者の状況により、やむを得ず解約に至る場合には、誠意をもって説明し、御理解納得いただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員は、利用者や家族が、運営推進会議や家族会・アンケート・面会時に出された意見や要望を、ミーティングで話し合いその後の運営に活かすように努めている。	利用者からは日々の暮らしの中で、思いを聞いている。家族からは、面会時や家族会・運営推進会議の参加時に意見を聞いたり、年1回実施しているアンケート調査で要望等の把握に努め、出された意見等はミーティング等で検討し、運営に反映させるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、職員のミーティングの機会に、意見や要望を聞くように努めている。又、随時、個別にも話を聞く機会を持つようにしている。	毎月行われるユニット会議や職員会議などで職員の意見や提案を聞いている。管理者は個人的に声かけをして相談や思いを聞き、働きやすい職場を目指して取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員が、意欲を持って働けるよう、休憩室等の職場環境や労働条件の整備に努めている。又、年2回の人事考課を行い、資格取得の支援等、向上心を持って働けるよう援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修参加を積極的に勧めている。又、カンファ等で研修報告して勉強し合い、他職員の資質向上に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入し、研修・勉強会・親睦会に積極的に参加している。今後は、相互訪問等を実施して更なる向上を目指していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の希望や生活歴・生活状況を把握し、不安を取り除くように努めている。又、家族と相談しながら、新しい環境に慣れていただくよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で、家族としての希望やこれまでの経緯を聞いている。又、入所後、状況に応じて相談し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始の相談時、本人や家族の思いや状況を把握して、今必要なサービスにつなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩であるという思いを共有している。日常生活の中で、本人の意思を尊重しながら、スタッフと共に出来る事を見つけて手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、機会あるごとに、利用者の状況や思いを伝えて、家族と相談しながら本人を支えていくよう協力し合っている。又、月1回担当者からお便りをさしあげたり、苑での様子や写真を掲載した「苑便り」を送付し、絆を深めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方の面会をはじめとして、自宅、実家への帰省、墓参り等機会を捉えて知人、友人に会えるよう家族にお願いしている。又、苑でも本人の希望が叶うよう支援している。</p>	<p>ドライブを兼ねての自宅訪問や墓参り・馴染みの美容室への利用など、個々の希望に対応している。家族や知人の面会が多く、暑中見舞いや年賀状作成などの支援を行っている。本人の希望を家族へ伝えて対応してもらう等、関係継続の支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常生活の中で、利用者同士自由に会話できるようにしている。又、職員は苑の行事やレクリエーションでコミュニケーションを図り、お互いが、仲良く理解し合えるよう支援している。又、トラブル発生時は、職員全員が同じ対応が出来るように話し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了されてからも、本人、家族共に苑と関係を続けられるように相談や支援を心がけている。又、入院や他事業所に移られた場合でも、情報提供すると共に、機会を作って訪問している。</p>		
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、本人の話聞き、思いを把握し、希望が叶うように支援している。本人の状態を見て、どこで誰と暮らすのが最良なのかを、本人、家族を交えて検討している。</p>	<p>日常生活の中での利用者の表情や言葉から意向等の把握に努めている。初めて聞く話や情報は記録して職員で共有し、ケアプランに活かすようにしている。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者と相談して、本人中心に支援している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前の事業所や病院から情報提供いただき、入所時には、本人や家族から聞き取りを行い、これまでの生活状況の把握している。又、入所後、職員の聞き取る「らしさシート」を通じて、生活歴を把握している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日々の申し送りやカンファレンス等情報交換を通して、現在の生活リズム・心身状態・残存能力を理解しつつ支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、笑顔で自分らしく暮らせるように、本人や家族の要望を聞き、職員間で定期的にカンファレンスを行っている。そこでの意見交換やモニタリングを基に、サービス計画を作成している。	本人及び家族の希望及び主治医の意見を参考に、担当者会議で介護計画を作成している。毎月のカンファレンスで担当職員のモニタリングと意見交換を行って、6ヶ月毎の見直しの他、随時、現状に即した計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、毎日のバイタル・排泄チェック表・個人ケース記録簿に記録し、日々の状況変化や情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。なお、バイタルチェック表には、介護サービス計画内容を表記し、チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況に応じて、受診の送迎を行っている。又、必要に応じて、往診、訪問マッサージ、訪問美容室のサービスを受けてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域包括センター、自治会長、民生委員との意見交換を図り、地域との接点を見出し、周辺施設への働きかけを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や入所前のかかりつけ医での医療を受けており、家族と協力して通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医で受診している。職員による受診支援も実施している。半数の利用者が、月1～2回の訪問診療等を受けており、希望に沿って適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置しており、介護職は、そのつど看護職の情報を得て、日常の健康管理や受診につなげている。受診・往診・訪問看護等、それぞれの看護職からも情報を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法を医療機関へ提供し、職員が見舞うようにしている。入院中は、家族や病院関係者と連携をとりながら、早期の退院につなげている。又、退院時には、看護サマリーの提供を受けて、その後の支援を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアの研修を受け、終末期のあり方について勉強しながら苑としての取り組みを検討している。入所時、苑としてできる事を説明し、理解してもらっている。</p>	<p>入居時に、看取り指針に基づきマニュアルを作成し、計画的に研修を行っている。重度化等の場合はホームでできること等を再度説明し、家族等の意向に沿って支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当や初期対応の仕方について訓練を行っている。又、「緊急時対応マニュアル」を作成し、いつでも見られるようにフロアに設置し、自主勉強会でも取り上げて対応できるようにしている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策のマニュアルを作成し、年2回利用者と共に、避難訓練、消防訓練を行っている。又、地域の防災会議に出席して防災情報を得ると共に、運営推進委員を通じて地域からの協力をお願いしている。</p>	<p>消防署の指導のもと年2回の消防・避難訓練を実施している。地域住民の協力も得られている。非常用の水や食料の備蓄や利用者各自の非常持ち出し袋を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけて支援している。又、研修に参加して、カンファレンス等で高齢者介護の尊厳について勉強し合っている。</p>	<p>接遇マニュアルを作成し、研修会や勉強会を実施している。呼びかけは「さん」付けを基本にし、記録物の保管やトイレ誘導時の気配り等、プライバシーや誇りを傷つけない対応に努め、ケアにおいても声かけや対応には十分注意をはらっている</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員は、難聴の方には筆談、病気で言葉が出ない方には自己決定できるように、いくつかの選択肢を提案したり、表情から思いを汲み取るようにして支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は、利用者の生活リズム・心身状態・残存能力を理解し、その日をどのように過ごしたいか、本人に聞きながらできるだけ希望に添って支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>朝の着替え等で、その人らしい服装や身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している。散髪は、本人や家族と相談して実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施してメニューに取り入れたり、季節の物・行事食・誕生日食と変化を持たせる工夫をしている。又、メニューを掲示し、準備や片付け等利用者にも参加してもらっている。	家族の協力を得て自家菜園での収穫を行い、菜園の旬の野菜を食べている。年1回の嗜好調査を行い、献立に取り入れている。個々の利用者の力を活かして下ごしらえや片づけを一緒にしている。誕生日食・行事食・季節の食材を利用したメニュー・手作り弁当など工夫し、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた食事を差し上げ、食事や水分の摂取量を毎日把握している。好みのおやつや飲み物を用意し、飲み込みの悪い方には、おかゆやとろみ食・刻み食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、その人に応じたケアをしている。又、毎晩義歯の消毒と、週1回コップや歯ブラシ・義歯入れ・ガーグルの消毒を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により、時間や習慣を把握し、トイレでの排泄を目指し支援している。季節や本人の状態により、紙パンツから布パンツへの切り替えも検討しながら支援している。	排泄パターンの把握を行い、日中はトイレ誘導を基本に支援している。紙パンツから布パンツへの切り替えやトイレでの排泄の支援によりおむつ使用者はいない。夜間のみおむつ使用やポータブルトイレ使用で負担のないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の水分補給、食事やおやつに食物繊維の食材やヨーグルト、飲み物にオリゴ糖を使用して自然排便を促すよう工夫している。トイレ時の腹部マッサージ・補水の声かけ・体操も常に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の状態や希望により入浴してもらっているが、とりあえず曜日や時間は決めてある。入浴されない方は、清拭や足浴で対応している。その他、尿・便失禁時は、随時シャワー浴を実施している。	入浴は週2日を基本としているが、希望があれば毎日の入浴が可能であり、清潔保持の為にシャワー浴は随時実施している。体調等によって足浴や清拭・複数の介助者での入浴支援を行っている。入浴剤や竹炭を使用したり、浴室や脱衣室の温度差を無くすなどの配慮をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のため、日中の活動を促し生活リズムを整えている。又、体調や表情を観察し、本人の希望により、足あげを兼ねた昼寝や、安眠のための薬を飲まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋を整理し、職員が把握出来るようにしている。又、薬の変更があった時は、ボードに掲示し、申し送りで伝え様子観察している。職員は、本人の状態を確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合った仕事や手伝いをお願いし、役割や楽しみを探す努力をしている。又、季節行事や誕生会・レクリエーション・散歩・ドライブ・外食等で気分転換を図っている。誕生日には本人の好きな料理を提供し、喜んでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	レクリエーションで、散歩やドライブに出かけたりすることはあるが、一人一人の希望に添うことはなかなか出来ていない。そこで家族と一緒に墓参りや外出が出来るようお願いしている。	日常的には周辺の散歩や玄関前広場を利用して日光浴を兼ねたお茶会やそうめん流し・焼肉をして気分転換を図っている。年間計画で初詣や花見等に出かけている。利用者の希望に沿った外出が家族とできるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解している。家族と相談しながら、利用者の希望に合わせてお金を所持したり、外出時買物できるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があればいつでも、家族や大切な方へ電話して声を聞き安心してもらっている。又、手紙やハガキ（暑中見舞い、年賀）の支援と、月1回担当者からのお便りでは、本人の思いを代弁するような形で支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、皆さんが落ち着いて暮らせるように気配りしている。又、玄関やフロアには季節の花を飾り、壁面も季節を感じられるように工夫して飾りつけている。なお、皆さんが集うフロアの明るさ、室温、湿度の管理には、こまめに調節している。</p>	<p>フロアは、中庭に面していて明るく天井が高く、広々とした造りである。敬老会等の合同イベントもフロアで実施している。花や飾り付けで季節を感じる工夫や加湿器等で適度な環境を保ち、居心地よく過ごせるように整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビを見たい人はソファに座ったり、お話したい人は、フロアの椅子で話したりしてもらっている。又、玄関のポーチにテーブルやベンチを置いて、外の景色をながめながら、ゆっくり過ごしてもらおうようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安心して過ごしていただけるように、家族の写真や馴染みの物を持ってきてもらっている。又、各担当者は、居心地良く過ごしていただけるよう季節の作品や家族からのお便りを飾ったり、居室の清掃や整理整頓に努めている。</p>	<p>居室入り口には、好みののれんがかけられ、担当職員の名札も貼られている。仏壇やタンス・テレビが本人の好みに配置し、ぬいぐるみ・写真・便りなどが飾られ、居心地よく過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室をはじめ、共有空間等居住環境が、今の利用者の状態に合っているかを常に配慮している。又、不安や混乱を招かないようにトイレ・風呂の目印や、家具・ベッド・手すり等の位置についてみんなで検討し、配慮している</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない